

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和元年度 宮城県意見交換会（第3回） 議事概要

令和2年2月17日
「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日 時】令和2年2月17日（月）10:00～12:00

【場 所】復興庁 宮城復興局 13階A大会議室

【出席者】

<副代表団体>（順不同）

株式会社七十七銀行、国立大学法人東北大学、復興庁総合政策班、復興庁宮城復興局、
宮城県、一般社団法人みやぎ連携復興センター

<オブザーバー>

独立行政法人中小企業基盤整備機構

<事務局>

PwC コンサルティング合同会社

【議事概要】

1 開会

1.1 開会の挨拶

次年度は復興・創生期間の最終年度でもあるため、これまでの振り返りを行いつつ、今後何を
重点的に取り組むかという議論もより具体的に進むことになると思われる。次年度の意見交換会
においてもそのことを念頭に置きつつ、引き続きご協力を賜るよう、復興庁より挨拶した。

2 各団体の取組紹介

各参加団体より、取組紹介資料（資料2-1以降）をもとに取組を紹介した。

3 「実践の場」開催報告

事務局より、事務局提出資料（資料1）をもとに以下の点を説明した。

- ① 意見交換会の概要
- ② 「実践の場」企画背景
- ③ 「実践の場」概要
- ④ 「実践の場」開催結果

（参加者の特徴、参加目的・満足度、効果測定）

4 次年度の意見交換会で扱うテーマ

事務局より、事務局提出資料（資料1）をもとに、次年度の意見交換会では「東日本大震災10
年目に向けて」をテーマとすることや予定案を説明した。

5 意見交換

5.1 「実践の場」の振り返り

時間等の制約がある中でも、取組の目的である「地域一体となって観光振興に取り組む仕組みをつくること」「自立的・持続的な活動につなげること」を一定程度達成でき、参加者の満足度が高いことも評価できた。

今後も地元の民間団体主導で継続していくためには、外部も含む様々な団体が連携してフォローアップを行いながらも、フォローのコアを担う人を決める、事業性に関して提案を行う、事業主体の認識の溝を埋めるコーディネートを行うなどの工夫が必要との意見が挙がった。

＜主なご意見＞

- ・ 個々に繋がっていた参加者もいたが、全体で集まる機会はあまりなかったため、今回の取組はよかったです。東松島の場合は行政が主導することが多いため、民間の参加者が自主的に取組を続けていけるとよい。
- ・ 自身がファシリテーターを担当したチームでは、既にやる取組が決まっている人と、関わりたいけど糸口を見つけられない人がいたのでマッチングできた。結びつける仕組みをどうつくるか考える必要がある。石巻圏観光推進機構が中心になって継続に取り組むという話があったが、できれば協議会からももう一押しできればよいと思う。
- ・ ひとつのプロジェクトを生み出す多様なプレイヤーが揃っていたのはよかったです。今後さらに事業性のあるものにするためには、単独事業者のみならず、同じように多様なプレイヤーが関わって進めていく必要があると思う。
- ・ 単なる意見出しに終わるのではなく、実行計画まで考えた点が効果的だったと思う。また、SDGsと紐付けたことで将来性がスコープに入った点もよかったです。
- ・ 時間の制約があったので仕方ないが、テーマを「牡蠣」に絞りすぎたかもしれない。結果的に似たようなアウトプットがあったように思う。
- ・ 単発イベントとしては目的を達成できたと思う。時間が非常に短い中で、目指すべき姿まで仕上げるためには、ある程度テーマの絞り込みや参考情報の割愛も仕方なかったのではないか。その中でも、参加者の満足度が高かったので成功だったと思う。
- ・ 地元で継続していくためには、最初は市が引っ張っていく方法もあると思う。その場合、どのタイミングでどのように民間に渡すのかをうまく決めればよい。また、今後は思いだけでなく、事業としてどのように継続させるとよいかサジェッションする人も参画するとよいと思う。
- ・ 様々な方が集まって、限られた時間の中でも十分な議論や成果創出はなされたと思う。ただし、議論の時間が足りなかつたと参加者からコメントが挙がっていたので、議論開始までの時間をもう少し短くする工夫も必要だったのではないか。例えば自己紹介を行わず、事前に資料で周知すれば、議論の時間をもう少し確保できてよかつたかもしれない。
- ・ 議論の時間が短く感じられたのは、それほど参加者の議論が盛り上がった、ということだと思う。とはいえて限られた時間で結果を出せるかどうかは、事前準備にどれほど時間をかけて、参加者にどれほど理解してもらえるかによると思う。

- ・ 関係する人々が一堂に集まり、一回で具体的なアイディアも出たため、非常によかったと思う。テーマを牡蠣に絞ったことで、牡蠣で何かやりたい人を集められ、さらに具体的な意見交換がしやすくなり、いくつかのチームが次に進むことができたのではないか。当面は宮城復興局・県・市・石巻圏観光推進機構が絡んで、継続を後押しすることが重要と思う。
- ・ 地元の方が当たり前に思っていることでも、実はおもしろい内容のものがあったので、客観的に見て良いアイディアを拾うために、外部の方が入ってもいいかもしれない。
- ・ 県の東部地方振興事務所や宮城復興局の石巻支所や産業系の班などでフォローするのがよいと思うが、フォローするコアを決める必要があると思う。また、生まれたプロジェクトをフォローするのと、プロジェクトが生まれる場を定期的につくる、2通りのフォローの方法があると思う。後者のような場がないのではないか。
- ・ 今回の参加者は、実業として観光業に携わっている人達と、自団体の事業とは別にボランティアのような意味合いで携わっている人達がいた。感覚が異なる部分もあるので、両者の間に入って結びつけるようなコーディネートが必要だと思う。

5.2 次年度の取組

次年度も今年度の取組の方向性を踏襲し、担い手育成にフォーカスした復興の振り返りを行うことや、東松島での「実践の場」をより強化して継続・展開する案が挙がった。

また、取組の検討にあたっては、協議会自体のあり方を検討することや、地域間格差・産業間格差を考慮することも必要との指摘があった。

別の観点では、10年目の節目であるため過去の振り返りのみならず未来志向での発信が必要であり、特に短期的な目線をもつ事業者との溝を埋めることができるとよい、との意見もあった。その他にも、東北地域で持続的に成長・発展していくためのエコシステムや、「新しい東北」の考えに基づいた地域課題解決を再認識することの必要性について意見が寄せられた。

＜主なご意見＞

- ・ 協議会独自でやるのであれば、復興全体を対象とした取組ではなく、例えば今年度実施した「担い手育成」など分野を絞り、10年間の担い手育成支援の振り返りを行うような取組がいいのではないか。そうでなければ、いずれかの団体と合同で開催する方法がよいと思う。
- ・ 今年度と同様の「実践の場」を次年度にまた開催することも一案である。あのような場は継続してやろうとする意志・熱意のあるプレイヤーがいることが重要であり、さらにその点を強めれば、復興のシンボルとなる事例が生まれるのではないか。
- ・ 震災10年以降、協議会自体をどうするのか検討が必要と思う。各県での復興状況が異なることからも、各県らしい運用が必要であり、10年目以降の存廃を含めて議論すべき。10年目以降も「新しい東北」の考え方は重要であり、多様なメンバーが参加しているので、より発展的なものにしたい。
- ・ 協議会として地域を選定する際に、地域間格差をどう捉えるかが重要な視点と思う。「復興のため」を前面に出す必要のある地域と、「事業継続・発展のため」という視点をもった地域がどちらもあると考える。

- ・ 面的に繋がることの重要性は認識されていると思うが進んでいないので、引き続き協議会として連携を促進することは大切だと思う。
- ・ 地域間格差は確かにある。協議会の「実践の場」では2年間で石巻圏域・気仙沼圏域を対象としたので、バランスを取るために山元町や亘理町など南側へ展開していくことも考えられる。もしくは引き続き石巻圏域と気仙沼圏域を対象としてフォローアップすることも必要と思う。
- ・ 業界間の格差でいうと、もちろん震災の影響もあったとは思うが、水産業や宿泊業は震災前から根本的に難しい産業だったと思う。
- ・ 未来志向と発信重視がキーワードだと思う。10年を総括するだけでなく、次に「新しい東北」が何を目指すのか、未来志向で発信できるといい。また、10年も経つと当事者以外は関心が薄まっているようにも思うので、発信重視の取組が必要ではないか。
- ・ 復興の成果等が、東日本大震災後の災害時にどのように活かされているか・活かそうとしているのかがパターンや型になって広まっていけば、将来の絵姿を描けるのではないか。企業はまだ短期的な視点でしか考えられない場合もあり、一方で協議会では長期的なものに取り組んでいるため、そういった長期・短期の視点を埋められるといいのではないか。
- ・ これから事業をやろうとしている地域のプレイヤーをいかに育てるかが重要であり、そして既存の事業者が新規事業創出と組み合わせて、常に新しい事業が生まれる基盤をつくることが必要ではないか。
- ・ 東北地域で持続的に成長・発展していくためのエコシステムが、地域の中に必要なのではないか。
- ・ テーマを大上段に構えると、「実践の場」を考えることが難しくなるので、「実践の場」を念頭に置きながらどこに重点を置くか考えた方がいい。
- ・ 復興の残課題は今までの方法ではなく、「新しい東北」の手法・取組がなければ解決しない、という考えをもつことが必要ではないか。

6 閉会

次年度の意見交換会の取組は本日の議論をインプットとして検討する。

次年度の第1回意見交換会は6月頃に開催予定。場合によっては第1回開催前にご意見を伺う可能性があるため、その際にはご協力を願いしたい。

以上